

1. 実況上の着目点

① 日本付近は冬型の気圧配置が緩み、寒気の影響が弱くなっている。北海道地方で3時間降雪量で4cmを観測し、東日本～西日本日本海側では1時間2～3mm程度の雨量を解析。また、アメダス風の観測では、えりも岬15、宗谷岬12、本泊・八戸10m/sでやや強い風や強い風が吹いている。波の衛星観測では、伊豆諸島付近5、小笠原諸島・先島諸島4mでしけとなっている所がある。

② 南西諸島では日本海に中心を持つ高気圧の縁辺を回る下層暖湿気と

華北付近に中心を持つ高気圧の縁辺を回る寒気を伴う北東風の流入(海面水温は27～28℃(平年差+1～2℃)で北東風と温度差が大きい)により、1時間2～3mmの雨量を解析。

2. 主要じょう乱の予想根拠と防災事項を含む解説上の留意点

① 19日夜にかけて下層寒気の影響は弱くなり、日本海に中心を持つ高気圧が北日本付近まで移動する。北日本では19日は、積雪の多い地域でなだれに注意。また、21日にかけて高気圧の縁辺及び高気圧とオホーツク海や日本のはるか東の低気圧との間で気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹いて、波が高くしけとなる所がある。東～西日本日本海側では19日は、北日本では20日にかけて、南西諸島と東～西日本太平洋側では21日にかけて、強風やうねりを伴った高波に注意。

② 2項①の高気圧は、20日は日本の東に移動する。高気圧の東進に伴って地上のシアーラインは、20日朝にかけて東海道沖を西進し、20日夜には東海道沖で低気圧が発生する。その後、21日にかけて発達しながら北東進。地上のシアーラインや低気圧に流れ込む下層暖湿気の影響で、大気の状態が不安定となり雷雨となる所がある。伊豆諸島付近では20～21日は、落雷や突風、急な強い雨に注意。

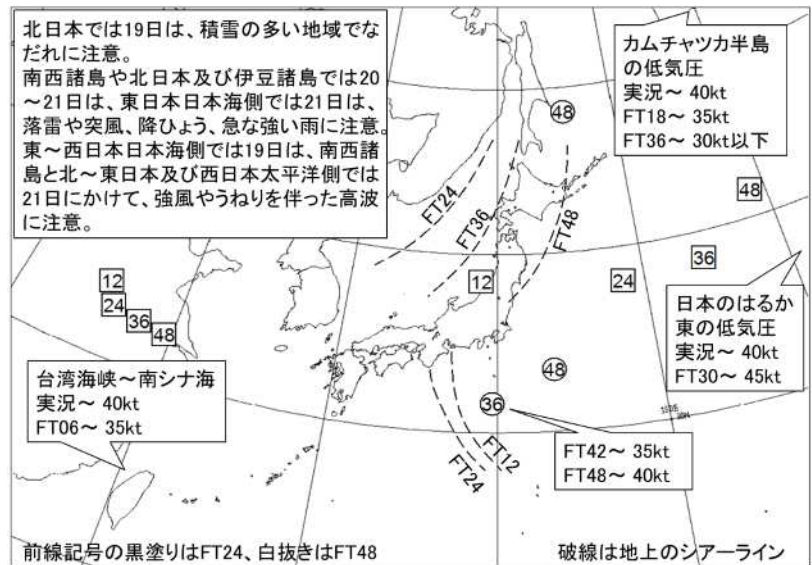
③ 2項②の高気圧の縁辺を回る下層暖湿気が流入し、南西諸島付近では20～21日は、大気の状態が不安定となり雷雨となる所がある。南西諸島では20～21日は、落雷や突風、急な強い雨に注意。

④ 500hPa 5400～5460mのトラフに対応し、20日朝に日本海で地上のシアーラインが形成され、21日朝にかけて東～北日本を通過する。地上のシアーラインに向かって流れ込む下層暖湿気に上空寒気の影響が加わり、大気の状態が不安定となる。また、地上のシアーライン周辺では気圧の傾きが大きくなり、強い風が吹いて、波が高くなる所がある。北日本では20～21日は、東日本日本海側では21日は、落雷や突風、降ひょう、急な強い雨、強風や高波に注意。

3. 数値予報資料解釈上の留意点 総観場はGSMを基本、量予想や降水分布はMSMやLFMも参考。

4. 防災関連事項 [量的予報等] ① 雨量(18時からの24時間)：多い所(100mm以上)はない。② 降雪量(18時からの24時間)：多い所(注意報基準以上)はない。③ 波浪(明日まで)：伊豆諸島4、北海道・東海・近畿・沖縄3m。

5. 全般気象情報発表の有無 発表の予定はない。



主要じょう乱解説図